

奥又白池～前穂高岳

2012年7月21日(土)～22日(日)

L:柴田、大山(記)

雨の入山。

昨年の夏山で奥又白池に入った花村さん達から熊目撃情報を得ていたし、今年の春山の下山途中も、上高地への林道で熊を見ている人たちの横を通ったりしたので、かなりビビッていたところに、追い討ちをかけるように明神のトイレにこんな掲示があった。



徳沢ロッジの軒下で雨宿りして休憩したところで、熊よけの鈴を出しピッケルに付ける。

新村橋を渡り、パノラマ新道への分岐は、残雪のためロープで規制されていた。くぐって先に進む。昨夜の運転でアドレナリンが出まくり、その余韻があるという柴田リーダーのペースが速く、無理についていってもバテるだけなので自分のペースをキープ。

パノラマ新道分岐の手前で雪が出てきて、奥又白池へ行く尾根へは雪溪から取り付いた（テープの目印あり）。



『氷壁』を読んで以来、憧れていた奥又白池であったが、そこまでのアプローチに関する情報は持っておらず、いきなりの木登りピッチにかなりひるんだ。しかし柴田リーダーは猿のようにあっという間に見えなくなってしまった。落ちたらやばいと自分に言い聞かせて、雨に濡れて嫌な感じの木と岩のミックスを慎重に登って行く。



高度を上げると悪場からも開放され、高山植物や沢の脇の踏み跡を辿っていく。しかしカッパは蒸し暑いし、休憩すると顔の周りを虫が飛んで快適ではなかった。やっとのことで辿り着いた奥又白池は思ったよりずっと大きく、別世界のような場所だった。



着いた時にはガスで何も見えなかったが、夕方になると雨ながらも前穂の北尾根が見えて感動した。自分達だけかと思ったが、5時過ぎくらいに2人組がやってきた。4峰の側壁に登る予定とのことだった。

濡れた衣類が乾き切らないままにシュラフに入ったが、150gのダウンでは湿気を吸いきれないのか、夜は寒くてどうしようもなかった。

2日目

3時起床。外に出ると星が見えた。しかし出発する頃には曇ってきた。少し高度を上げて振り向くと、奥又白池が見下ろせた。



前穂の北尾根に日が当たる。

尾根上の踏み跡は明瞭だが、北尾根の方へ向かっていると思われるものもあり時々修正。見下ろす雪溪を朝いち出発していった2人組が登っていた。



やがてこちらも雪溪に突き当たり、アイゼンを装着して登る。雪溪が切れているところがあり、そこの通過について協議して、登れそうだから、一旦下りて登ろうということになった。

柴田さんが先行して順調に登っていたのだが…



突然の落下。すぐ下の段からさらに一段落ちて雪渓と地面の間に挟まって止まった。

一瞬の出来事で声も出なかった。しかし、柴田さんの方から手も動く、足も動く、と冷静な
応答があり、とりあえず雪渓の下からの脱出。ザックがクッションになってふくらはぎに
打ったような感覚があるだけという。



上に上げた右足のステップが崩れたとのこと。ひと息いれた後、もう一度トライする柴田さん。しかしクリアできず、自分もトライしてみるが、下から見えたほど簡単ではなく、へらへらと行ける行けるとか言って勧めたことを反省しながら断念。右側の岩場を回って雪溪に乗る。最初からそうすればよかった。

あとはひたすら雪溪を登り、コルに出る。



前穂までは踏み跡が不明瞭で、ガスで視界のない中をコンパスで方向確認してから進む。

やがて分岐の標識のシルエットが見え縦走路に合流。前穂に至る。



下りの重太郎新道も、雨の中では気が抜けない。しかしこんな天気の中でも、紀美子平に荷物をデポした身軽な集団がこれでもかというほど登ってくる。

途中、日が射してカッパを脱いですっきりすると雨が降り出すという不安定な天気の中を岳沢小屋まで下り、そこから下はもう降られることもなく上高地に下山した。

(タイム)

1日目 7:01 上高地B T ~8:38 徳沢 ~10:10 パノラマ新道分岐 ~12:40 奥又白池

2日目 4:47 テント場 ~6:57 A沢取付 ~7:46 コル ~8:47 前穂 ~11:48 岳沢小屋
~14:00 上高地B T